

Aeth. (ビソウカス／CHK 卒業生：刀襴さん翻訳記述より抜粋)

残念なことに、ホメオパシーの資料のどこにも、Aethusa の慢性的なコンディションについての記述は見当たりません。レメディーは主に急性疾患に考えられてきました。もちろん、ケントはこのレメディーの急性のピクチャーを美しく解説しています：ひどい胃腸のコンディションについて「子どもは、死んでしまいそうな、青白いヒポクラテスのような顔をしている」と。Aethusa の慢性状態のピクチャーは、マテリアメディカに出てくる特定の手がかり、レパートリー、その他の情報源と、臨床ケースから集まる情報とが組み合わさって立ち上がってきました。

精神的、感情的な特徴として、私たちはしばしば、Aethusa の人がほかの人たちから離れていることに気づきます。一人離れた人、です。彼は内気で、しかもなかなかほかでは類を見ない方法でそれを表現します。内側では、彼はとても深く、激しい感情を経験していますが、彼はこれらの感情について、ほかの人たちと会話しません。彼は心動かされるかもしれませんが、涙は出てきません。彼は親しみを感じているかもしれませんが、よそよそしく映ります。

精神病理学的な成長のある特定のポイントで、Aethusa の人は、ほかの人とコミュニケーションすることを控えることに決めたかのようです。この引きこもりを引き起こす感情的な怪我、もしくは失望は、驚くほど穏やかである場合があります。こうした内気さや引きこもりの原因となるような、苦い失望や悲しみの長い歴史を、Aethusa に見ることはありません。通常、そこまで重要に思えないような、過去のストレスがそこにあります。患者は、「私は幸せな家では育ちませんでした」とか、ほかのこうした漠然とした状態について話すかもしれません。しかし、このような断固とした引きこもりを起こすほどの確固たる何かが起こったようには思えません。この、決定的で十分な原因が欠けていることと、その奇妙な結果が、このレメディーの特色と言えます。

ほかのケースでは、私たちは、ゆっくり膨らむ幻滅の代わりに、誰も患者の強い感情を十分にわかったり、応えたりしてくれなかったという感覚があるのを見つけます。こうして患者は、ほかの人とのコミュニケーションは単純に価値がないと感じ、努力する価値を感じなくなっている可能性があります。一部の患者は、疎外感を経験するかもしれません。彼らは、自分の感情の出口に本当の意味でなるものはない、誰も本当には、自分の内側に感じている強い感情をわかってくれないと感じています。結果として、インタビューで彼らは言うかもしれません、「私はほかの人たちとは違うのです」と。

こうして、Aethusa の人は、一匹狼になります。それは、彼がコミュニケーションすることができないということではありません。実際、インタビューの最中、彼はかなり話し好きであることもあります。彼は他人に対して不安もなく、自分に対する彼ら

の反応を恐れてもいません；むしろ彼は深いレベルで、ほかの人類とコミュニケーションすることは実質的に不可能だという基本的な確信を採用したかのように見えます。

Aethusa を、Ignatia や Nat-m など、他の閉じた性格タイプと混同してはいけません。これら後者のタイプは、非常に洗練されていて、過剰に敏感で、ほとんどヒステリックな人たちで、その人の中では苦痛と悲しみは感情的な引きつけや硬化を作り出しています。Aethusa タイプは、過敏でもないし、そんなに洗練されても、ヒステリックでもありません。彼は丈夫で、もっと根源的な、より力強い感情をもっています。子どもの感情のように。Aethusa の感情は、引きつけを起こしたりするには、あまりに活力があります；苦々しい気持ちというのはあまりなく、Ignatia や Nat-m で見られる、もろい、ヒステリックな要素も、このレメディーでは見られません。

しかし、こうした激しい感情は、表現する場を見つけなければいけません。そして、Aethusa の人というのは、一つの、ほかに例を見ない出口に引きつけられるようです：動物。この、ほかの人類とコミュニケーションをしたくない人は、動物と並外れたコミュニケーションをするかもしれません。彼は動物への膨張した愛着を発展させるかもしれません。そして、自分の鬱積した感情すべてを、ペットに伝えるかもしれません。Aethusa の初期の感情を子どものそれと比べてみると、特定の子もたちがペットに対して抱くこの動物への愛を理解できるかもしれません。Aethusa の人は動物を、どんな人類よりも愛しているかもしれません。実際に患者は、言うかもしれません、「私は人類を愛することには興味をもっていません、動物への愛だけです」と。彼は、あたかも相手が人間であるかのように、動物と話します。そしてこのコミュニケーションからものすごい感情的な満足感を得ます。いくつかのケースでは、何十匹もの動物を集めるかもしれません；彼は動物の保護者になります。もし誰かが、彼のペットのうち一匹に石でも投げようものなら、彼は激怒して、攻撃してくる人を文字通り殺そうという衝動をもつかもしれません。愛着がとても強く、自分の財産を動物に残すことを考えることさえするかもしれません。

ブルービングでも、ケントのレパトリリーでも、Aethusa が「動物の妄想」というルブリクスに記載されているのは面白いことです。幾人かの患者は、たとえば、そこには実在しない猫や犬を見るかもしれません。あるいは、部屋をドブネズミやハツカネズミが走り回っているという固定した妄想をもつ女性もいるかもしれません。こうした妄想は、もはや理論的な精神が働いていないところでも、深い無意識的なところで動物とのつながりが続いているということを示唆しています。こうした進んだ精神状態、もしくは妄想において、この幻覚で見られる動物への恐怖はありません；無意識的な精神は、動物のイメージを投影するだけです。動物に対する愛情は自然なことではないかと言う人もいるかもしれません。そして実際に、これは本当です。しかし、Aethusa の愛は過剰なのです。Aethusa による処置のあと、これらの動物収集家たちは、彼らの動物を手放し始めます。彼らの愛着への程度は、正常レベルに戻りま

す。この態度の変化は、動物への愛着の病理的な性質を表します。Aethusa の患者は、処置の後、彼の引きこもった状態からの出発のことを、夢から出てきたように感じるかもしれません。感情的なエネルギーが放出され、代わりの道が開かれます；患者は社会福祉にとっても関わりをもつようになるかもしれません。そこには、動物を気遣うという傾向とかなり似たものがあります。福祉活動を通して彼は愛を表現します、しかしほかの人に直接彼の感情を伝える必要は感じていません。患者はインタビューの間、逆説的にこう言明するかもしれません、「私は、人類とはもう終わりました」。しかしながら、別のポイントでは、彼は言うかもしれません、「僕は全世界を抱きしめたいんです」と。彼はものすごい愛を感じることができます。まさにこの矛盾こそが、Aethusa のケースを物語っています。さて、この激しい感情の出口が不十分にしか見つからなかった場合、そして感情が抑制されたままでいた場合、感情が無意識に負荷をかけるということは、想像に難くありません。この負荷は、Aethusa の病理を作り出す主な要因になります。無意識が溢れ出たとき、患者がしばしば独り言を言い始めるのを見るかもしれません。彼が自分の考えを大きな声で話すとき、彼は自分の周りに人がいることさえ気づかないかもしれません。それは「流れ出す」のであり、象徴的に、このレメディーのもつ嘔吐や下痢などの症状が、言葉におけるそれに相当するのです。Staph も、独り言を言うかもしれません；彼はとても感情的で、感情的なコミュニケーションを必要としていますが、何かちょっとでも攻撃的なことを言われたときに、彼はすぐに引いて、家に帰り、鏡に向かって話します。

たとえば Aethusa のケースで見られるような、無意識の飽和状態をもつ人は、夜にたくさん症状を持ちやすく、特にそれは眠りにつく前に起こります。Aethusa の人は、暗闇で悪化します。暗闇は彼の存在に浸透し、彼の胸に重たいセンセーションを作り出すようです。彼は暗闇での窒息を恐れ、結果として、明かりをつけ、窓をあけることに強迫的になったりします。彼はまた死を恐れます；この Aethusa の恐怖は、それが患者が眠りに入るそのタイミングで起こり、彼を縮み上がらせ起こしてしまうという点で、とても特徴的であり、顕著です。それはまるで、患者が、彼の精神において理性のコントロールを放棄したとき、積み上げられた無意識が完全にはっきりと現れるかのようです。彼が眠りに入り始めたちょうどそのとき、意識下の、騒がしい感情が、彼ら自身に気づきを強いて、彼を圧倒する勢いで迫り、彼は際立った死の恐れで飛び上がるのです。

レパートリーにおいて、Aethusa は「睡眠への恐れ—目を閉じるのを恐れる、もう二度と起きないかもしれない」というループリクスで乗っている唯一のレメディーです。このレメディーにおける、とても印象的で、高度に特徴的な恐れです。多くのケースにおいて、Aethusa の患者は眠りたくありません。彼は眠りにつくことを恐れ、なんだか彼が寝ている間に死んでしまうことについて恐れています。この恐怖の当然の結果として、手術への恐れがあります；患者は自分が麻酔から醒めないことを恐れます。表現としては、窒息への恐怖と、眠りにつくことへの恐怖です。最終的に彼が眠

りに落ちたときも、睡眠は落ち着きがなく、よくビクッとして中断されます；彼は睡眠中にしゃべったり、夢遊病になったりさえしがちかもしれません。

Aethusa にはほかに、別の特徴的な恐怖がみられます。すでに言及したように、Aethusa の患者はとても深い感情をもっています、そしてそれを表現したいけれども、彼はとても強い愛着を家族に対して感じているかもしれません。彼は、家族が死ぬことを考え、怖がるかもしれません。彼が自分の家族にける感情はとても強く、こうした可能性について対処するのは文字通り無理だと思ってしまうほどです。彼はこうした悲しみが、自分の感情的なコントロールを失わせてしまうこと、そして彼が狂ってしまうことを恐れています。しかしながら、彼の、親類に対するこうした強い愛着にも関わらず、家族と彼の間にある直接的な感情的なコンタクトは、ほとんどありません。

同様に、患者は彼の感情を刺激するようなほかの状態にも、耐えることができません。たとえば彼は言うかもしれません、「たくさんの病気の患者がいるときには、私は医者のおフィスに入ることができません。誰かが苦しんでいるというのを見ることが耐えられないのです」と。Aethusa の患者は同情的に見えますが、直接的な方法でそれを表現することは絶対にしません。それよりは、彼は超然としていて、自分の感情の強さを隠しています。

Aethusa の感情的な領域は、まるで火山のようで、噴火を予告する活動が頻繁に起きますが、決して噴火しません。そのかわりに、それはほかの出口を見つけます。それは身体的なもので、最も顕著なものとしては、吐くことや下痢を通して起こります。Aethusa の嘔吐や下痢は、ものすごい強さをもっていて、暴力的でさえあります。その暴力性はたぶん、どれくらい感情のレベルを表現していないかという度合いに比例します。

食べ物、特にミルクに対しての暴力性を観察するとおもしろいです。摂取されたものはすぐに、力づくで排出されます。生体組織は、すぐにも死にそうな状態にまで急速に悪化します。嘔吐はそれくらい深刻です。人は直感的に、似たような感情的な一斉除去が患者に起こることを感じます。自分の存在を脅かす（死）くらい暴力的な、一斉除去です。

感情がコントロールされた状態で、かなりの時間、出口を失っていた場合、イライラがわき上がり、激怒の状態に達し得ます。女性は、生理がくると、短気さがどんどん増してくる様子を見せるかもしれません。ものすごい短気さが、生理の2日前から、生理が始まって2日目まで起こることがあります。月経の流れが次第に衰え始めると、システム全体がリラックスし始めます。一部の女性は、この緩和が起こるとき、ものすごい性的な欲求を経験すると言うかもしれません。月が過ぎると、性欲は減退して、次の生理のサイクルまで、性欲は完全になくなります。

Aethusa の患者の人生は、ふつつ、性的な考えが比較的欠けています。それは、彼らが性的ではないということではありません。というよりは彼らは、性について考えることがないのです。性的な活動は、彼らの人生からだんだんと消えたのです。それは、彼らがほかの人類とのコミュニケーションからだんだんひいていったのと同じように、です。それはまるで、彼らが性的なエネルギーを昇華させて、その代わりに福祉活動や動物への愛にそれをあてたかのようです。こうした昇華は、劇的に起きるわけではありません；それはむしろ、段階的に少しずつ、ほぼ無意識的なプロセスで起きていて、重大な失恋の後に起きているかもしれません。通常、患者は、幻滅に対して即座に大きく反応して苦しむというよりも、小さいが少しずつ積もっていく一連の失望の結果として、性を欠いた人生にあきらめを感じるようです。性を抑制することで、これらの患者は、周りからはシリアスで幸せではない人に見られます。性に対する完全な嫌悪さえあるかもしれません。一人の女性は「最初は性に対して大きく強い欲求がありました。でも、私の夫はあまり興味がなく、それで私はだんだんと性への嫌悪を発展させたのです」と言いました。

一般的に言って、そこには強い性的な欲求がありますが、それはコミュニケーションの別の形でもありますから、そこには性的な感情の抑制もあるわけです。結果として、これらの患者は、下品だったり、きわどい冗談を聞くとときには、かなり動揺したり、不安になっているかもしれません。彼らは、すでに激しい内部の感情状態を興奮させ得るものについては、何事も耐えられないのです。

Aethusa の患者はとても深刻に見えます。いつもまじめに瞑想をしている人、という印象を与えます。この瞑想への強い傾向は、鼻のしわに深く、際立って刻まれていて、年齢の高さと、ある種の賢者的な印象を与えます。Aethusa の顔は、深くしわをきざんだ、年をとった賢い顔です。

よいホメオパスは、こうした観察すべてを考慮にいれなければいけません、なぜなら彼らは、「ユニークな」処方させるかもしれないからです。一度私は、インドの哲学者を治療したことがあります。彼は当時、世界で最高のホメオパスたちをまわっていましたが、彼自身の評価によると、誰も彼を実質的には助けることができませんでした。彼が私に、治療しないかと声をかけてきたとき、私はまだ若いホメオパスでした。彼はそのとき、たくさんのアロパシー薬を飲んでいました。彼は自分の病歴について話しましたが、私はまったく何もつかむことができませんでした。しかしながら、私は、彼の顔が、Aethusa の描写に似ていることに気づきました。それから私は、彼の鼻の頭を注意深く見ました。そこには、吹き出物があり、それはこのレメディーの典型的な鼻の吹き出物と似ていました。結果的に、私は正しくケースを始めることができ、彼の慢性的な気管支炎や、ほかのたくさんのかなり悩ましい症状を治すことに成功することができました。

Aethusa は心を麻痺させ、むなしい気持ちにさせ、情報を受け取って、保持して、処理することを不可能にします。男子学生や大学生は、自分の仕事に集中することができません。彼らは何も読むことができないので、試験の準備をすることをなどは完全に不可能であるように思えます；彼らは考えたり、注意をとどまらせることができません。彼らの頭は混乱して、ときおり彼らは、自分の感覚器官と外的なものとの間にバリアが築かれているような、麻痺状態を感じます。この状態は特に、精神的な尽力からプレッシャーをかけられたことによって起こります。Aethusa がそうした状態を起こすことが観察できるまで、私はこうしたケースでは、いつも Pic-ac をあげていました。Aethusa の子どもは、Calc-p に似ているかもしれませんが。どちらのレメディーも、頭痛があって、集中したり、勉強したりできないところがあります。

Aethusa の精神は弱くなり、効率的に働く努力をすべて断念したかのように見えます。それは、感情と性的な欲求が、たいした抵抗もなしに放棄されたのと同じような形で、です。そこにある idea は、比較的小さな挑発で、組織があきらめてしまう、ということです。Aethusa が最も示されるときというのは、学生があなたに、もう勉強を続けられないのだと言ったとき、そして、彼の判断によれば、彼はそこまでの過剰な尽力はしていないと言ったときです。

精神があきらめたように見えるとき、独特な不安と落ち着きのなさが起こります；それから、もし自分が眠ったらもう起きれないかもしれないという独特な恐怖を伴う、不眠が起こります。患者は疲れきっていますが、睡眠できません。日中、彼は反応的なエピソードとして、速く起きて、速く静まる、ものすごい激怒を示すかもしれません。特に戸外に出歩くとき、彼のイライラは悪化します；屋内にいるとき、彼はより調子よく感じます